

大学1年生を対象とした文章作成指導

—PREPの型に着目して—

小原 寿美

Teaching First-Year University Students Writing Skills: Focusing on the PREP Model

Hisami Kohara

1 はじめに

大学生の学力低下が指摘されるようになって久しい。中でも特に「書く力」が低いことが指摘されており、各大学では2000年ごろから初年次教育として日本人を対象とした日本語教育が行われるようになってきた（鈴木他：2000など）。書く力は、大学で学ぶ上でも、現代社会において仕事をする上でも必要不可欠である。

大学に入学すると、授業ごとに授業後に課題としてミニレポートが求められたり、学期末には1,000字を超えるレポート課題が課せられたりすることも多い。また、インターンシップや就職活動においては、「エントリーシートの記入」「就職試験での論作文作成」など、文章としてさほど長くはなくても「テーマに沿って論理的に述べ立てる力」が求められるようになる。

高校までの国語の学習を通して力をつけ、十分に読んだり書いたりすることができる学生が一部にはいる一方で、学生の多くは、1年前期のミニレポートを書く段階で、「何を書いたらいいかわからない」「どう書いたらいいかわからない」「書くのは苦手」と嘆く。その中には400字程度の文章課題ですら思うように書けず、提出をあきらめてしまう学生もいる。

そこで、本稿は書くことが多く求められるようになる大学での学びに対し、初年次から必要となる200字から400字程度のミニレポート（日々の課題など）が書けるようになるなど、「書く」ことに関する取り組みについて検討したい。具体的には、大学初年次から継続して学習でき、かつ就職活動時期になっても社会に出てからも

有益であると思われる「PREP」の型を用いた文章指導の試みとその可能性について検討することを目的とする。3章で詳述するが、「PREP」とは「結論 (P: Point), 根拠 (R: Reason), 具体例 (E: Example), 結論 (P: Point)」からなる話し方の型である (大嶋: 2013など)。PREPとは何か、どのような活用方法があるかなどについて述べ、PREPの「書く」教育への活用可能性について検討を行う。

2 大学生の「書く力」とは

大学生に対する「書く力」など基礎的リテラシーの育成は、大学教育の重要なテーマである。大学全入時代を迎え、どの大学でも入学生の学力低下が指摘されている。平成10年に国立大学の全学部長を対象として行われた大学生の学力低下に関する調査 (鈴木他: 1999など) および、平成15年に全408大学の大学教員を対象として行われた調査 (石井他: 2005) では、「論理的に思考し、それを表現する力が弱い」「日本語の基礎学力が低い」といった指摘がなされている。

こういった指摘を待つまでもなく、すでに1980年代から大学生の書く力に関する指摘が行われ、大学において、文章表現教育が行われていることも、井下 (2008)、安藤 (2018) などにおいて指摘されている。また、書く力を補うための文章表現教育も、各大学で行われている (宮崎: 2014, 安藤: 2018, 松村: 2022など)。

井下 (2008) では、文章表現教育に関する大学の取り組みを、以下の4つに類型化している (図表1参照)。

図表1：2000年以降の各大学の文章表現教育に関する取り組みの類型化

類型	概要
学習技術型	基本的な学習技術の習得を目指し、その一環として主にレポートの標準的な書き方やノートの取り方などの指導を行う
専門基礎型	専門に関するテーマが素材として用いられ、専門教育に直結する表現形式や表現力の習得を目指す
専門教養型	専門分野での学修経験を自分の言葉で表現することを通して知識の再構築、すなわち学習の意味づけを行い、教養へと発展させる
表現教養型	技術より学習者としての自立的な態度や感性の育成を重視し、自分の思いや考えを言葉に乗せて伝えるための教養教育に力を注ぐ

出所) 井下 (2008) より抜粋引用

図表1の通り、大学で行われている「書く」ことに関する取り組みは、「学習技術型」「専門基礎型」「専門教養型」「表現教養型」など、文章表現教育とひとくくりにはできないほど多様であることがわかる¹⁾。また、大学は社会に出るための最終

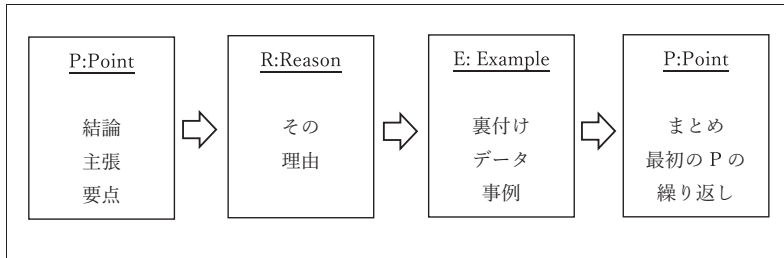
準備の場でもある。そのため、安藤（2018）も指摘している通り、大学で身に付けておくべき「書く力」は、単に大学教育—すなわちレポートや卒業論文—のみに対応できればよいというわけではなく、社会に出るとき、あるいは社会に出てから必要な「書く力」をも射程に入れる必要があると考えられる。以上のように、大学で求められる「書く力」の範疇は実に広いと言える。

次章以降では、「書く力」の中でも特に将来のインターンシップや就職活動の際に書くことを要求されるエントリーシートなどを意識しながら、授業の課題など、「200字から400字程度のまとまった文章を書く」ことを目指して、PREPの型を意識して書く試みについて示す。

3 PREPとは

「PREP」とは、「結論（P: Point）、その理由（R: Reason）、事例＝理由の裏付け（E: Example）、まとめ＝結論の確認（P: Point）」の頭文字をとって名付けられたもので、話の流れをこの4段構成にすることで、論理的な構成になるとされる（大嶋：2013、など）。この「型」を意識しながら話すことは、ビジネス場面で相手に伝わりやすい伝え方として広く知られており、就職活動の自己PRなどではこのPREP（図表2参照）を用いて書くことが推奨されている（大嶋：2013、キャリアパーク：2020など）。

図表2：PREP法の型



出所) 大嶋 (2013) から一部改変・引用

このPREPの型を意識して話すこと、書くことは就職活動時に必要になるだけでなく、社会に出てからも必要とされる。PREPの型で述べられた文章の一例を、図表3および図表4に示す。

図表3は「好きな動物は何ですか」と尋ねられた時の回答例、図表4はビジネスシーンの例である。図表3、図表4のように、話の流れをこの4段構成にすること

で、簡潔で論理的な構成となる（大嶋：2013など）。ここで述べる論理的とは、「わかりやすく、筋が通っている」ということである。図表3、図表4のように、まず結論を述べ、その理由・根拠を示し、続いて、その根拠の裏付けとなる事例を明示する。この一連の流れが物事について、「なぜ」と考える習慣づけにつながると考えられる。日頃から物事を「なぜ」と深く考える習慣のない学生にとっては、有益であると思われる。また、根拠の具体例を想起する行動は、就職活動の際にも必要となる。

図表3：PREPの型を用いた表現の具体例1

P（結論）	「私は犬が好きです」
R（理由）	「それは、頭がよく、人間の役に立つからです」
E（裏付け）	「例えば、盲導犬や聴導犬、介護犬、それに警察犬や麻薬犬など、いろいろ働いてくれている犬がいます」
P（まとめ）	「このように役に立つので、私は犬が好きなんです」

出所）大嶋（2013）より抜粋引用

図表4：PREPの型を用いた表現の具体例2

P（結論）	「こちらのA-1型をお勧めします」
R（理由）	「その理由は、御社のニーズに最も合っていると考えられるからです」
E（裏付け）	「こちらは小型で、置き場所をとりませんのでフロアを広く使いたいというご要望にぴったりですし、機能も十分です。一般に最も普及しているのはA-2型ですが、これだとひとまわりほど大きめになります」
P（まとめ）	「そういうわけでA-1型をお勧めします」

出所）大嶋（2013）より抜粋引用

大学生、その後の社会人の話す内容・書く内容は論理的であることが求められるが、学生の書く文章は論理的でない場合が少なくない。例えば、学生が書くミニレポートの中には「400字以上と指定があるため、とにかく字数を満たすように何か書きつらねた、脈絡のない文章」や「書いてはみたものの全体として字数が不足していることが途中で判明し、元の文章の最後に感想やお礼などを書き加えるなど、内容よりも字数を満たすことに注力した文章」が散見される。字数は満たせたとしても、こういった文章を何度書いても文章の内容そのものが改善することはあまりなく、「自分は文章が書けない」という気づきのみが蓄積するのではないだろうか。

また、こういった文章をいくら書いても、就職活動時にエントリーシートや自己PRが書けるようになることには貢献しないのではないだろうか。

そこで、本稿ではPREPの型を用いて文章作成することに視点を置いた試みを行った。PREPに視点を置いた理由は次の四点である。

まず、一点目として、論理的な文章を書くことを1年次から意識し、根拠を考えながらまとめた文章を書くトレーニングを行わせたいためである。二点目として、PREPでは、型を覚えてしまえば、課題に対してどのように述べ立てていけばよいかという構成で頭を悩ませることが不要になるためである²⁾。三点目として、自分で自分の書いた文章をモニターしながら、示された字数内でよりよい形に整える作業ができるようにしたいためである。最後に、四点目として、以上述べた理由によって学生の書く意欲を喚起するためである。学生が「書いてみよう」と思えるように、書くためのハードルを下げる必要があると思われるためである。

以上のような点を鑑み、本稿ではPREPの型を用いて「200字から400字程度のまとめた文章を論理的に書く」試みについて、次章で実践事例を示す³⁾。

4 実践例 PREPを用いた事例

本章では、実践事例について具体的に示していく。

4.1 活動の実際

指導の概要は以下の通りである。事例の実践は2023年度前期のグローバルコミュニケーション学科1年生を対象とした授業である「ビジネススキル演習」の中で行われた。使用した元の文章は、1年生全員が入学前課題として取り組んでいた新聞課題であり、社説を読んで自身の考えをまとめたものである。授業では入学前課題として書いた社説に関するレポートを用い、各自が社説に対する自身の意見を発表したり、グループのメンバーから質問や意見をもらうという活動を行った。また、その後、各自の社説と大学での学び（たとえば「ビジネススキル演習」という授業や授業で立てた目標）がどのように関係するかをグループで発表し、意見交換を行った。この活動の事後課題として、「あなたが入学前に扱った社説の内容と大学での学び（特定の授業、または自身の立てた授業における学びの目標：下線部を以下「大学での学び」と示す）はどのように関わりがあるか、600字から800字でまとめる」というレポートを課した。この段階の課題を本稿では課題1と示す。

課題1は、「字数は満たしているものの社説の内容と大学での学びが関連づけて述べられていないもの」「社説の内容と大学での学びの関連について述べてはいるが、根拠が明示されていないもの」「自身の意見がなく、記事の内容をなぞって書き連ね、まとまりがないまま字数を満たしたもの」「未提出」が多かった。そこで、この状

況を改善するために、PREPの型を示し、PREPとは何か説明、例示（3章参照）したのち、課題2として、「PREPの型を用いて課題1を200字以上400字以内でまとめ直して提出する」を課した。説明では、示された例（図表3、図表4など）では文章全体が短い、文の長さの調整が必要となる場合、長くするのはR（根拠）とE（具体例）の箇所であることも添えた。また、PREPの型は必ず用いなければならない、というわけではないが、自身の意見とその根拠は必ず明示することを課した。PREPの型は必要に応じて改変してもよいこと、それよりも自分なりに論理的に文章をまとめて提出することが重要であることを伝え、文章作成（提出）を促した。

4.2 事例

以上の課題2に関し、PREPの型を参照した書き方になっている事例を3点示す。

4.2.1 事例1：Aさんのケース

トルコ・シリア地震についての社説を読み、社説内容と「世界情勢に目を向ける」という自身の目標との関連について述べた、Aさんの課題2の文章を示す。

グローバルな人材になるためには、ただ英語が話せるだけでなく、世界情勢にも目を向けることが重要である。なぜなら、英語をスムーズに話すことができて、世界で起きている出来事を全く知らない人、または知ろうとしない人は世界で災害が起きた時、募金などの被災地支援をする手段が多くあるのに、それに協力することができないからだ。そのためこれからはニュースを見たりして、今世界で何が起きているのか情報収集を日ごろから行っていきたい。

まず結論から述べ、それに関する根拠を明示することができている。具体例は欠けているものの文章も全体として簡潔にまとまっている。課題1として提出された約800字のレポート内容をコンパクトにまとめることができている例である。

4.2.2 事例2：Bさんのケース

続いて、統一地方選挙についての社説を読み、「国際的な分野と政治の関わり」の関連について述べた、Bさんの課題2の文章を示す。

私は、「自治選挙への関心を高めよう」という社説を選びました。なぜなら、私が今学んでいる国際的な分野と、選挙を含む政治的な分野は深く関わっていると考えたからです。たとえば、社会で生きるには語学だけではなく、国同士のつながりや背景を知ることにより深く中身の充実したコミュニケーションをとることができます。具体的に言うと、外国では自国の歴史について自分の意見を持った人が多く、その国の政治や政策によってその傾向を知ることができます。日本人として自分の国の歴史やその背景にある政治に対して意見を持つことで充実したコミュニケーションがとれるだけでなく、話の幅が広がります。以上の理由で私は「自治への関心を高めよう」という社説を選びました。

まず結論から述べ、それに関する根拠、具体例、まとめを明示することができている。文章も全体として簡潔にまとまっている。PREPの型がきれいに踏襲されている事例のため、個々の根拠や具体例を洗練させていけば、今後よりよい文章になる可能性がある。

4.2.3 事例3：Cさんのケース

最後に、電力値上げについての社説を読み、「経済学の基礎」との関連について述べた、Cさんの課題2の文章を示す。

社説の内容と「経済学の基礎」という学問分野⁴⁾とのつながりについて考えると、どちらもSDGsに関する内容だと言える。社説の内容はSDGsの目標7である「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に繋がるだろう。なぜなら、国連広報センターによる「SDGs報告2022」では、世界で電力を使えない人は7億3,300万人いると報告されているからだ。具体的に言うと、達成目標の二つ目の「2030年までに、エネルギーを作る方法のうち、再生可能エネルギーを使う割合を大きく増やす」というものがある。社説の中で大きく取り上げた洋上風力発電はこの目標に大きく貢献できるのではないかと思う。よって、社説の内容と経済学の基礎は、SDGsに関する内容だと考える。

Cさんの文章も、PREPの型を意識して使用し、授業内容と社説内容を関連付けようとしている事例である。根拠や具体例を自分なりに述べている例と言える。示された根拠、具体例をより適切なものにしていくことで、より深く社説と学びの内容の関連付けを行うことが可能であろう。

以上の3事例以外にも、冒頭で社説と大学での学びの関わりについて、自分の考えを述べ、なぜそのように考えたのか、具体的にはどのような事例からそう考えられるのか述べたもの、あるいは述べようとしたものが散見され、課題1の内容よりも根拠や具体例を明示した簡潔な文章が増加した。

4.3 授業後の学生の感想

授業後、学生からの質問感想カード⁵⁾ および授業後のコメントには、以下のようなのが見られた。PREPの型の提示は、学生が短い文章を作成する際に効果がみられる可能性が示された。PREPの型を使ってうまく文章作成できた学生は、手応えを感じているように思われる。

- ・ PREPの型があると、構成を考えなくていいから楽に書けたと思った。
- ・ 今回は短かったこともあって、書きやすかった。PREPもよかった。
- ・ 将来、この型は(就職活動などの準備で)⁶⁾ 使えそう。
- ・ 型を使って書くのは難しそうに思ったけど、なんとか書くことはできたと思う。次は内容に力を入れたい。

5 考 察

以上から、PREPの型を用いた文章表現指導を行った結果、一部の学生にとっては、効果が見られたと言える。まず、3章で示した四点に沿って考察していく。

一点目として挙げた、課題をクリアするために単に文字を書き連ねて字数を満たすのではなく、論理的な文章を書くことを1年次から意識し、根拠を考えながらまとめた文章を書くという点について述べる。PREPの型を用いて文章作成する場合、学生が自身で「なぜ～なのだろう」など、冒頭で明示した結論の根拠を考えることになる。また、さらにそれに続く裏付け(具体例)を導きだすことも必要となるため、自分自身で根拠の具体例について検討を行うことになる。事例でも、元の文章では十分な根拠を示すことができていなかった学生が、根拠を述べることができている。このことは、将来的に書くことが必要となる自己PR作成などにも適しているといえる。

二点目として、型を覚えてしまえば、課題に対してどのように述べ立てていけばよいかという構成で頭を悩ませることが不要になるという点についてである。短い文章を書く場合、学生は構成そのものについての検討を省く場合が少なくない。長い文章では「序論⇒本論⇒結論」という流れで文章作成するよう求められることが

一般的であるが、学生は、「序論とは何をどう書くのか」「本論とはそもそも何をどう書くのか」などがわからないため、たとえば「序論⇒本論⇒結論」の形で書くよう求めても、これを援用しまとまった文章を書けるようになるか疑問である。しかしながら、PREPは、型がそれぞれのパーツの説明になっている。そのため、型を覚えておけば、「まず問いの答えである結論を最初に書くのだ」「次はなぜそう考えたか書くのだ」「続いて裏付けや具体例を書くのだ」「最後に結論をもう一度示して全体をまとめるのだ」と全体の型や内容を想起しやすい利点がある。

三点目として、自分で自分の書いた文章をモニターしながら、示された字数内でもよりよい形に整える作業ができる。就職活動が本格化すると、学生は自己PRや志望理由などを示された字数内で調整し、書くことが求められる。ある企業では300字で求められていた自己PRを、他企業では400字で書くよう求められることもある。そういった場合、ゼロから再度文章を作成するのはロスが大きい。必要な情報は残しつつ、字数を減らす（あるいは増やす）ことなどが求められるため、型を利用し構成は活かしながら裏付けの部分等で字数を調整することなどが必要となる。また、型に沿った要素（たとえば「根拠」）がない場合、型のチェックをすることで不足している要素に気づくことができる。PREPで書くことになじんでおけば、そういったモニター作業に慣れていくことが可能であろう。

最後に、四点目として、以上述べた理由によって学生の書く意欲を喚起することができる可能性を指摘する。文章を書く行為は、人間にとって負荷の大きい行為である。そのような書くという行為に学生が取り組めるかどうかは、意欲を喚起できるかどうかにも左右される（松村：2022）。上述した三点により、学生が「これなら書けるかもしれない」「書いてみよう」と思えるように、書くためのハードルを下げることも必要であろう。今回、一部の学生は「PREPの型でうまく書けるようになった」「この型は役に立ちそう」とポジティブな感想を述べていたが、一方で「PREPは難しい」と、書くことやPREPの型を用いることにネガティブな感想もあった。PREPの型を用いてもなお書くことに抵抗のある学生に対してどのような対応を行うのかは、今後さらなる検討が必要である。

以上、本稿では、PREPの型を意識した文章表現指導の可能性について述べた。事例の授業内での課題⁷⁾のように、PREPの型を用いた指導は、教師が型の説明をし、学生が型になじんでおけば、就職活動時期まで繰り返し活用できる可能性がある。まとまった文章表現指導の時間がとれない場合でも、また、課題等でもPREPの型を用いた指導は単発で行うこともでき、活用しやすいのではないだろうか。

学生視点で見ても、たとえば授業の課題で示される200字から400字程度の課題に、繰り返しPREPで答えていけば、「これなら書けるかもしれない」「課題を提出できるかもしれない」と、感じられるようになるのではないだろうか。内容も構成も一

から考えるより、構成は定まっていて内容のみを検討すればよい状態のほうが書く気になるのではないだろうか。そしてその書く気になること、繰り返し書くことが文章作成にとって大変重要であり、単位取得に向けても重要であることを我々教員は理解している。石井他（2005）などの指摘にもあるように、「論理的に思考し、それを表現する力が弱い」現代の学生の文章指導の一つのアイデアになれば幸いである。

6 今後の課題

本稿では数人の事例をもとに PREP の型を用いた文章表現教育の可能性を述べたにすぎない。今後事例を増やし、PREP の型を初年次教育に活かすことの妥当性について検討したい。また、本文中でも述べたが、PREP の型を用いて指導を行ったとしてもそもそも書く気の起こらない学生への対応、書けない学生への対応については、さらなる研究が必要である。今後の課題としたい。

【注】

- 1) 井下（2008）の類型には当てはまらないが、本稿の取り組みは、「就活準備型」とでも名付けたい。
- 2) どのような問いであっても PREP の型で回答できるというわけではなく、適する問いとそうではない問いがあることを添えておく。
- 3) PREP の型の教育現場での応用は、西野（2023）などで、すでに行われている。
- 4) 「経済学の基礎」は授業名であり、学問分野ではないが、ここでは学生の文章をそのまま記載した。
- 5) 質問感想カードとは、授業担当者である筆者が授業後に提出を課しているシートである。質問感想カードをやりとりすることにより、学生からの授業に対するフィードバックが得られたり、質問に対して翌週回答したりすることができる。
- 6) () 内は補足情報として筆者が加筆した。
- 7) 課題は事後にチェックし、コメントを添えて再フィードバックした点を添えておく。

【引用文献】

- 安藤葉子（2018）「大学で必要とされる『書く力』とは」『文化学園大学・文化学園短期大学部紀要』49 pp.133-143.
- 石井秀宗・柳井晴夫・椎名久美子（2005）「大学生の学習意欲と学力低下に関する大学教員の意識についての調査研究」『大学入試センター研究紀要』34 pp.19-58.

- 井下千以子（2008）『大学における書く力 考える力—認知心理学の知見をもとに』東信堂
- 大嶋友秀（2013）『話すスキル UP！すぐできる！論理的な話し方』日本能率協会マネジメントセンター
- 鈴木則夫・荒井克弘・柳井晴夫（1999）「大学生の学力低下に関する調査結果について」『大学入試フォーラム』22 pp. 50-56.
- 西野秀昭（2023）「高等学校理科・生物基礎における教科書記述の変化に基づいた新しい学習指導案の開発に関する研究～「PREP法」による「主体的対話的で深い学び」へ～」『福岡教育大学紀要』72-3 pp. 61-68.
- 松村一徳（2022）「大学生の書く力を伸ばすために有効なフィードバックのあり方に関する考察」研究論集（人間科学研究）24号（デジタル）
- 宮崎加代子（2014）「文章を書く力」をめぐる課題と指導—大学一回生の作文分析から—『大阪総合保育大学紀要』9 pp. 29-41.

【引用 URL】

- キャリアパーク（2020）就活！「【PREP法で魅力的な自己PRに】採用担当者に読まれるエントリーシートや履歴書の書き方と面接での答え方～例文あり～」
<https://careerpark.jp/15089>（2024年1月2日閲覧）

【謝辞】

本稿は、授業内で行った「PREPを用いた文章書き換え」を素材として分析・考察を行ったものです。授業を通して協力してくれた学生のみなさまに感謝申し上げます。